



いわき平ロータリークラブ週報

創立 1953.6.18

承認 1953.6.29

<http://iwakitaira-rc.jp/>

■事務局 / 福島県いわき市平字白銀町 4-13 不二屋第二ビル2F

(0246) 25-3000

■例会場 / いわきワシントンホテル椿山荘

(0246) 35-3000

■例会日 / 毎週木曜日 p.m.12:30 ~ 13:30

会長：三瓶 和秀 幹事：鈴木 弘康 発行：会報・広報委員会

第 3054 例会 (37号) 2017 年 4 月 20 日 (木) 晴

新入会員卓話 SPEECH

NTT 東日本の取り組み



NTT 東日本いわきエリア
支店長 常 葉 修 一 会 員

NTT 東日本は NTT グループの中で東日本地域の個人、法人のお客様を対象に、固定電話やブロードバンドなど生活やビジネスに密着した多彩な電気通信サービスを提供しています。私どものいわきエリアは、いわき市と双葉郡 8 町村を担当しており、東日本大震災に伴う原発事故による帰還困難の区域を含んでいます。

これまでの会社の取り組みでは、やはりメインは黒電話の固定電話による通信で、加入者は平成 9 年をピークに減少しています。その後、インターネットの時代がやってきました。今は光回線を利用いただき、さまざまなサービスを提供できるようになっています。通信インフラを支える会社から社会のインフラを支えるまで発展してきました。これからを考えると、どこでも人材不足が表面化し、さらに復興にも力を注がなければならない状況で、いわゆる IoT、AI (人工知能) といった最先端分野の仕事が増えていきそうです。

ここで復興復旧の取り組みとして DVD の映像を見ていただきます。

震災から 6 年を経過して、いわきや双葉郡はどのように復興して来たのか、それに NTT がどう関わっているのかをお話します。津波や地震の被害を受けた地域は、確実に復旧復興が進んでいます。ただ、原発事故の被害を受けた地域は、まったく別物で、これからの復旧復興の本番になります。当社は、社内外の情報発信に努め、生々しい現場の状況を、隠すことなく、正確に、スピード感を持って伝えることで、真の地域貢献、復興への貢献につなげて行こうとしています。

例えば戦後の日本は、焼け野原からどのように再生されていったのか想像してください。復興のため都市計画をつくり、土地区画整理、換地調整、がれき撤去、かさ上げ、山の切り土・盛り土などをして整地しました。

そこに新しい道路ができると電力会社などとともに電柱を立てます。場所によっては地中化もします。こうした動きは震災後の復興も同様です。復興が加速する中で、通常の仕事と切り離して進める必要があり、昨年秋、支店で私が責任者になり復興まちづくり推進チームをつくりました。再開発に関するさまざまな情報を収集して一元管理し、社内の関連部門と連携して再開発物件単位での一括提案ができるよう対応しています。

主なシステムの整備実績では、まず双葉郡 8 町村に双葉広域ライブカメラシステムをつくりました。150 カ所にカメラを設置し、インターネットでモニタリングをしています。ネットで「双葉広域カメラ」と検索すると見ることができます。また楡葉町向けのアプリ開発として天神岬公園にある震災メモリアル展示写真にスマホをかざすと、動画と音声の流れるようになっています。楡葉町で 4 月から再開した小中学校にはタブレットや電子黒板を活用した教育システムを入れました。6 号国道から見える広野町の役場の上には防災情報や町のお知らせが流れる表示板を取り付けました。

さて少し時間をいただき、私のアピールタイムとさせていただきます。多くの会社では複数のパソコンを用いた様々なシステムを構築されていると思います。いったん故障するとメーカーの違いによる不具合などで復旧に手間取るケースがあります。事業所内のシステムの全体最適化といったコンサルティングは最も得意とする分野ですので、私にお任せ願います。県内では私 1 人だけのプロジェクト管理の国際資格「PMP」やマイクロソフト社のシステムエンジニアなどの資格を持っています。これまで、いわき市の公共施設予約案内システム、双葉地方広域圏組合の介護認定審査システムなどを構築しました。宮城県でも東北大学病院の手術ロボットの制御や仙台市の防災情報伝達制御システム構築などを手掛けました。

最後に 2020 東京オリンピックと NTT の関わりを紹介いたします。NTT グループはゴールドパートナーの認定を受けています。東日本は主にデジタルサイネージシステム構築、いわゆる電子看板を担当するほか、各種施設の通信手段構築で無線 LAN や Wi-Fi、有線のネットワークなどを整備します。まだ準備段階ではありますが、今年から数千人規模の態勢でオリンピックに向け万全を尽くしてまいります。



2016~2017年度
国際ロータリーのテーマ

「人類に奉仕するロータリー」

Rotary Serving Humanity

「出席はロータリアンの3大義務の1つです」

司会：鈴木弘康幹事

〔点鐘・ロータリーソング（奉仕の理想）・
四つのテスト（新田俊彦会員）〕

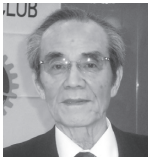


新田俊彦会員

◆来賓・来訪ロータリアンの紹介

○大阪御堂筋本町RC会員・三須久氏

★結婚祝



吉田 仁平さん
(4月26日)

★誕生祝



伊藤 盛敏さん
(4月19日)



松村 耕三さん
(4月26日)

ハッピーバースデーソング斉唱

◆会長挨拶ならびに報告



(代理・関口武司副会長)

本日は三瓶会長が、お休みですので私が代理を務めます。よろしくお願い致します。初めに、ひまわり信用金庫の村上公一さんの入会を決定したいと思います。皆さん、よろしいでしょうか。

きょうの食事は日本食です。日本食の特長に「うま味」が挙げられます。1907年に東京大学の池田菊苗博士がコンブから「うま味」の成分のグルタミン酸を発見し、研究成果を当時の東京化学会で報告しました。世界で初めての報告です。博士は、それまで味覚としてあった甘味、塩味、酸味、苦味の中に、うま味を加えることを提案しました。その後、うま味の成分はカツオのイノシン酸、シイタケのグアニル酸といずれも日本人が発見しました。日本人は、うま味を素直に受け入れた一方で、欧米人はかたくなに否定しました。長くそういう状況が続いたのですが、1982年に「うま味研究会」が発足して世界各国で、うま味に関する報告やイベントを繰り返しました。少しずつ欧米人も理解を示すようになり、今から20年前の1997年、米国での国際シンポジウムで、うま味は5番目の味として認められたのです。

日本人が、うま味を味覚の1つとして提唱してから

90年して、ようやく国際的に認められたのです。和食を味わう時は、研究者たちの苦労を振り返るのも一つかと思えます。

◆幹事報告

○5月のプログラムが承認されました。皆さんにご連絡いたします。

委員会報告

◆出席委員会（池田直彦副委員長）

例会日	基本会員数	出席者	メーキャップ数
4月20日	52名	27名	—

◆ロータリー財団委員会（平戸康明副委員長）

清水和政さん、志賀康朗さん、浅倉哲也さん、鈴木弘康さん、平戸康明さん。以上5件

◆米山記念奨学会委員会（松崎浩委員長）

清水和政さん、浅倉哲也さん、鈴木弘康さん、山崎洋次さん。以上4件

◆スマイルボックス委員会（小野寺順正委員長）

♥三須 久さん（平ロータリークラブには2回目のメーキャップとなります。本日もよろしくお願ひします）
♥関口武司さん（会長の代理をつとめます。よろしくお願ひします）
♥松村耕三さん（誕生日祝ひありがとうございます）
♥伊藤盛敏さん（昨日シニアティから打てる事になりました。又3ヶ月皆出席賞ありがとうございます）
♥吉田仁平さん（結婚記念日祝ひありがとうございます）
♥清水和政さん（卓話楽しみにしております）
♥鈴木弘康さん（3ヶ月皆勤賞ありがとうございます。卓話よろしくおねがひします）
♥新田俊彦さん（3ヶ月皆勤賞ありがとうございます）
♥山崎慶一さん（皆出席賞ありがとうございます）
♥山崎洋次さん（常業さん卓話よろしくお願ひいたします）
♥八幡恭朗さん（皆勤賞ありがとうございます。常業さん卓話よろしくお願ひします）
♥黒須幸雄さん（常業さん卓話よろしく）
♥高橋康二さん（常業さん卓話よろしくお願ひします）
♥青木喜久男さん（常業さん卓話よろしくお願ひします。3ヶ月皆勤賞ありがとうございます）
♥鈴木東雄さん（早退します。常業さん卓話よろしく）
♥新妻純男さん（三ヶ月皆出席ありがとうございます）
♥浅倉哲也さん（常業会員の卓話を楽しみにしています。皆勤賞ありがとうございます）
以上17件

★本日の例会案内 4月27日（木） 12：30～
外部卓話 木田源泰様

（いわきオーリーブプロジェクト）

お食事メニュー＝ローストビーフ 温野菜添え

★次回の例会案内 5月11日（木） 12：30～
青少年奉仕委員会担当卓話

お食事メニュー＝金目鯛のポワレ、四元豚のパス
トラミ サラダ仕立て